

チェルノブイリ 小児甲状腺がんの「虚偽と真実」

ウクライナの最高権威に聞く
日本の専門家が、決して認めない被害の実態



甲状腺がんが原因とまで結論していません。でも、もっと多くの被害が、ウクライナ、ウクライナ、ウクライナ

話／**ミコラ・トロンコ** (ウクライナ内分泌代謝研究所所長)

写真・インタビューまとめ／**広河隆一**

コメント／**崎山比早子** (3・11甲状腺がん子ども基金代表理事、元国会事故調査委員会委員)

協力／**和田 真、平野進一郎、田村栄治**

Interview with Mykola TRONKO Photo & Edit by Ryuichi HIROKAWA

Comments by Hisako SAKIYAMA Cooperation with Shin WADA, Shinichiro HIRANO, Hideharu TAMURA

発表される福島の被害は正しいのか？

「子どもたちの甲状腺検査をすると、放っておいてもいいがんも多く見つかるので、かえって人々は不安になる。だから、あまり検査をしないほうがいい」というキャンペーンが現在、国や福島県によって進められている。実際、福島県小児科医会の太神おが和広会長は8月25日、検査でがんやがんの疑いと診断された患者が増え、県民に不安が生じていることを理由に、県に、子どもの甲状腺がん検査規模の縮小を含めた見直しを求める要望書を提出した。これを信用して大丈夫なのか。それで本当に子どもたちの健康と命は守られるのか。それを知るカギはチェルノブイリにある。現地では、本当の被害規模はどれくらいだったのか。日本で伝えられている、小児甲状腺がんの患者6000人、死者15人という数字は正しいのか。ウクライナの小児甲状腺がんの権威ミコラ・トロンコ所長(※)に話を聞いた。

首相官邸ホームページが伝えた数字

2011年3月11日に東日本大震災

※ウクライナ語読みで、ミコラ・トロンコ氏とも呼ばれるが、これまでの一般的な呼び方を用いた。